

令和3年度 学校自己 及び 学校関係者評価表 武蔵村山市立第十小学校

経営理念	「児童も教職員も全員が、ほっとしたり楽な気持ちになれたりする学校」 そこには、豊かな個性のある児童が互いの多様な価値観を認め合い、安心して学び合える場があり、「学習が大好き」「友達が大好き」「先生が大好き」と笑顔で語れる児童がいる。
------	---

【学校運営協議会・会長】吉田 豊	様式
学校運営協議会（学校評価分）	第1回 10月21日（木） 第2回 1月13日（木） 第3回 2月24日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標 (評価の根拠)	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価		
				10月 2月		最終評価				意見	評価点 (4点満点)	
				達成値	達成値	達成度	評価					
学力向上	確かな学力の定着 ・基礎基本の確実な定着 ・問題解決的な学習の推進	学校の授業と個別対応(一人一台端末の活用等)との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	国語・算数の小テスト等で9割以上正答する児童の割合(教員の記録)	70	51	55	79	B	授業の中で、端末を一つのツールとして活用することはできている。しかし、その活用が学力向上につながるまでには、至っていない。	授業の中での端末活用のメリットを明らかにし、活用場面を絞っていく。また、個別学習に対しては効果が高いので、活用が小テストの結果に表れるように工夫する。	個別対応は重要です。端末等の機材を利用し、より一層楽しく分かる授業を推進してください。	3.5
		家庭学習の内容やカード等を工夫し、保護者と連携しながら家庭学習時間(学年×10+10分)を徹底させる。	学年に応じた家庭学習時間が定着している児童の割合(児童評価)	70	26	43	62	B	保護者アンケートからも、家庭学習は引き続きの課題となっている。今年度から、高学年ではeライブラリを活用した、個別対応の家庭学習を試行している。	家庭学習カードに、知・徳・体のバランスで記入できるように全校で統一する。学習だけでなく、お手伝いや体力づくりについても評価していく。	保護者の理解や児童への声かけが最も重要ですが、児童が興味をもつような勉強方法を今後も考えて頂きたいと思います。	2.7
		音読を国語の授業に位置付け、すらすらと音読できる児童を育成する。	すらすらと音読できる児童の割合(児童評価・教員の記録)	80	62	73	91	A	昨年度までの国語の研究成果により、音読を含めた読み取りの授業展開が定着している。	引き続き音読が学力の基礎であることを共通理解し、家庭学習での音読についても保護者に啓発していく。	音読により、文章の内容を理解する力が伸びると思います。読書も大切なので、本を読む習慣を身に付けさせてください。音読は学びの土台です。特に力を入れて指導してください。	3.5
		字を丁寧に書くことを指導し、習慣化できるようにする。	字を丁寧に書くことができた児童の割合(児童評価・教員の記録)	90	68	73	81	A	全校朝会等での呼びかけにより、字を丁寧に書く意識が高まっている。	「十小ひらがな検定」を実施し、技能としての定着を目指す。	丁寧に書くことは大切です。字を丁寧に書くことや字の成り立ちにまで興味をもち、習得できることは大切です。	3.4
		ICT機器(デジタル教科書・一人一台端末の活用等)の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合(教員の記録)	70	65	67	96	A	デジタル教科書は、全教員が活用できるようになり、意欲の向上につながっている。また、高学年では、ICTを活用した意見集約や課題提出など、高度な実践に進展した。	ICTの活用が、学力の向上に直結するように、授業・家庭学習等の具体的な活用場面を設定する。	今後必要となるツールですので期待しています。	3.7
		授業のユニバーサルデザイン化(焦点化・視覚化・共有化)を図り、分かりやすい授業を実践する。	一週間の内で、UD化できた授業時数の割合(教員の記録)	70	65	73	104	A	教室環境や授業の展開など、ユニバーサルデザインへの理解が学校全体として深まってきている。	共有化の場面において、ICTを活用した実践を蓄積し、共有していく。	伝統的に取り入れられているので、更なる発展を望みます。	3.8
体力向上		体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	「体育の時間が好きである」児童の割合(児童評価)	80	82	88	110	A	体育の授業に対して好意的であるとともに、体力を向上しようとする児童が増えた。	投げる力と持久力の向上にターゲットを絞り、授業内にトレーニングメニューを組み入れる。	体育の改善は、運動好きな子が必ず増えます。難しい環境での指導ですが、体力は最も大切な取り組みです。	3.8
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	中休み・昼休みとも外遊びをしている児童の割合(児童評価)	70	56	72	102	A	多くの教員が外で一緒に遊んでおり、鬼遊びやボール遊びを楽しんでいる。コロナ禍ではあったが、多くの児童が校庭で楽しく遊ぶことができた。	授業と同様に、投げる力と持久力の向上を目指し、休み時間を活用した体力向上週間・月間を設定する。	体育が好きな児童が多いので、これからも積極的に外遊びをするよう声をかけてください。簡単な事でも、継続は力となります。	3.3
豊かな心の育成	人としての基礎づくり(心と体) ・人権教育の推進 ・豊かな人間性を育む教育 ・体力づくりの推進	「いすを入れる」ことを通して、心の育成の基礎を養う。	「いすを入れる」ことができた児童の割合(児童評価)	90	86	89	99	A	「いすを入れる」という行為を通して、相手を思いやる心を育むことができた。	来年度も引き続き取り組み、目標値100の達成を目指す。	学校でも家庭でも守りたい基本です。当たり前をやるのが一番難しい年頃、とてもよい取組だと思います。	4.0
		「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合(児童評価)	80	78	81	102	A	全校道徳や日常的な道徳において、意見を言いやすい環境を整えることができた。	コロナ禍により実施できなかった縦割り班での全校道徳実施を目指す。	道徳を大切にしている、よいことです。様々な体験を通じて、学びながら心の成長となります。	3.9
		縦割り班清掃において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班清掃で協力できた児童の割合(児童評価)	80	85	86	108	A	縦割り班清掃に変わったことにより、清掃の質や児童相互の交流に好影響が見られた。	縦割り班清掃を軸に縦割り班の結束を高め、多様な活動で縦割り班を活用していく。	今後も続けて下さい。先輩から後輩に、正しく引き継がれていると思います。学年の違いをのりこえて、みんなで協力し合っている。	3.6
信頼される学校	子供を育てる情熱と向上心の醸成 ・教員自身の自己研鑽 ・いじめ・不登校対応	教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合(教員の記録)	80	94	93	116	A	日常的に授業公開を行うなど、多くの教員が授業交流の機会を得た。	来年度は、週案を校務支援システム上で管理し、それを相互に見合う中で授業交流を進める。	授業力を高めることは重要です。厳しい状況ですが、工夫して実施したいと思います。	4.0
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童(解消済み含む)の割合(いじめアンケート)	100		94	94	A	生活指導夕会などで毎週確認していることにより、いじめ防止のアンテナは高くなっている。	道徳などと連携していく中で、未然防止の部分を強調して行っていく。	スマホのSNSなどによるいじめや、教師や親の目の届かないところでのいじめに悩む児童がいるかもしれません。普段の様子の観察と同時に、随時アンケート等を活用して潜在的ないじめの発見・対応に努めて下さい。	3.6
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合(児童評価)	80	73	83	103	A	授業や休み時間に児童が楽しみにしている時間があることで、多くの児童が楽しく登校できている。不登校は数名いるが、各自が目標をもって取り組んでいる。	縦割り班での活動を様々な場面に広げることを計画しており、異年齢の中での楽しさを味わってほしい。	努力が同えませんが、今後も向上させて下さい。今は行事の縮小などで難しいですが、皆で支え合えればと思います。高学年になると、不登校が増加することが心配です。	3.3
		保護者会の内容や手法(オンライン含む)を充実させ、参加率6割を目指す。	保護者会の参加率(学校の記録)	60	49	47	78	B	50%には届いていないが、写真や映像の活用、保護者相互の交流の2つの視点で、保護者会の改善に努めてきた。	写真や動画の活用により、学級の様子などは伝わりやすくなった。保護者会と授業参観を連携させるなどして、参加率50%を目指す。	保護者は、児童の学校での様子や授業の状況が知りたいのが実情です。これからも可能な限り情報発信をお願いします。参加率を上げる努力に感謝しつつ、お手伝いできれば幸いです。	3.2
開かれた学校 ・保護者・地域と、協働し共有する学校の推進	学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。	HPの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を週1回程度の割合で実施(学校・教員の記録)	80	35	43	54	B	学級通信の発信については6割程度の学級に留まるが、メールやツイッターによる配信など、学校全体としてバランスよく情報発信できている。	ツイッターによる情報発信を、分掌の業務として位置付け、さらなる情報提供に努める。	全ての学校や職場でのテーマですが、週一回は教師の負担が大きいです。	2.8	
	PTA活動・地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。	地域の行事等に教員の誰かが参加する割合(学校の記録)	100									
		学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。	行事に対するボランティア参加の割合(学校の記録)	100								

【達成度】 = [達成値] / [目標値]
 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し